

## 参考資料

### 幻のコーヒー「ブルボンポワントゥ」

18世紀の初頭、ブルボン島（現レユニオン島）に持ち込まれたアラビカ種の中から発見された、貴重なブルボン種の突然変異体が『ブルボンポワントゥ』です。

当時のブルボン王朝（現フランス政府）がコーヒー栽培を奨励したことを受け、ブルボン島ではコーヒー栽培が急速に拡大しました。18世紀半ばにはコーヒー栽培はブルボン島の産業を支えるまでに成長し、最盛期には年間4,000トンの生産を記録したと言われています。

しかし、島を襲ったサイクロン、早魘（かんばつ）などの被害を受け、19世紀に入るとしだいに島の産業の中心はコーヒーからさとうきび栽培へ移行していきました。そのため19世紀後半には商業生産がほぼ途絶え、1942年に僅か200kgのコーヒー生豆がマルセイユ向けに積み出されたという記録を最後にその存在を消して以降、ルイ15世も愛飲したと言われる『ブルボンポワントゥ』は伝説のコーヒー、幻のコーヒーとして愛飲家に語り伝えられることとなりました。

#### 【ブルボン・ポワントゥの栽培の歴史】

1714年	ルイ14世がブルボン島でのコーヒー開発をフランス東インド会社に命令。
1715年	エチオピアが起源であるコーヒー品種アラビカ種が、イエメンを経由してブルボン島に紹介される。そして、そこでブルボン種の突然変異体として「ブルボン・ポワントゥ」が発見された。 ■生産量の推移 1727年：50トン、1732年：400トン ⇒ 1734年：500トン、1744年：3,500トンまで増加
1771年	初めてポワントゥに関する記述が現れる『種は長めで、香りもエキスも豊かである。先端はかなり尖っており、ブルボン・ポワントゥの名にふさわしい』（※サンルー地域を縦断したAUGUSTE BILLIARDの記述）
1800年	生産量が4,000トンに、ピークを迎える。
1806年	サイクロンの大被害で3分の2のコーヒー樹を失う。 ■生産量の推移 1815年：1,305トン、1820年：1,962トン、 ⇒ 1826年：2,400トン
1829年	再びサイクロンの被害で生産半減（その後も何度かサイクロンの被害を受け、コーヒー栽培は衰退の一途を辿る） ■生産量の推移⇒1855年：265トン
1942年	フランスのマルセイユに向けて200kgのポワントゥが積み出されたという記録が、事実上最後の記録となる。

### ブルボンポワントゥ再生プロジェクト

UCCは、1999年に幻のコーヒー『ブルボンポワントゥ』の再生に向けた現地調査に着手し、レユニオン県庁と協力し島内で発見した約30本の原木から培養（種の再生）を進めることになりました。

この取り組みは、その後フランス国立農業研究開発国際協力センター（CIRAD）、フランス国立研究開発センター（IRD）との共同プロジェクトに発展し、現地では、現在50軒の農家が「ブルボンコーヒー生産者組合」に加入して再生に取り組んでいます。

着手から8年を経た2006年末から2007年1月にかけて『ブルボンポワントゥ』の本格的な再生が実現し、2009年、3度目の収穫を迎えることとなりました。

#### 【UCCブルボンポワントゥ再生プロジェクトのあゆみ】

1999年	様々な文献を元に、幻のコーヒーブルボン・ポワントゥを再生するため、レユニオン島を訪問。しかし限られた時間での調査は難航を極め、結局見つからず。調査をサポートしたレユニオン島の獣医アレン・ゴティエ氏にそのあとの調査を託す。帰国後、ゴティエ氏から30本ほど原木らしきものを発見したとの連絡がある。
2001年	レユニオン県庁農政局がコーヒー産業再開の可能性を調査するためジャマイカのUCCブルーマウンテンコーヒー直営農園を訪問。レユニオン県庁がコーヒーの再開発を決議。
2002年	フランス本国がブルボンコーヒー再開発プロジェクトに開発援助を決定。フランス国立農業研究開発協力センター（CIRAD）、フランス国立研究開発センター（IRD）が技術的、科学的サポートを開始。共同プロジェクトに発展。試験農家に興味のある農家を募り、育種の実験を開始。ブルボンコーヒー生産者組合を設置。
2007年	再生プロジェクト開始後、初めての出荷。それをすべてUCCが購入し、製品化へ。
2008年	2回目の収穫に成功し、初回同様、UCCが2,000セット日本市場にて販売。
2009年	3回目の収穫に成功し、UCCが3,000セット日本市場にて販売。



#### ■レユニオン島について

マダガスカル島の東方約800kmのインド洋上に位置するレユニオン島はフランス共和国の海外県で、面積2,512平方キロメートル、人口約76万人です。県都はサン・ドゥニで、主要産物はサトウキビ、ラム酒等。観光産業も有望視され、リゾート開発も着手しています。

#### ■レユニオン島の歴史について

16世紀初頭、ポルトガルのインド植民地総督、ベドロ・デ・マスカレニャスが当時無人のこの島を発見し、その後、17世紀半ばにフランスが領有権を主張。1662年にはこの島をブルボンと命名して最初の植民地を建設。1793年レユニオンと改称。1946年にフランスの海外県となり、1974年に行政権が与えられました。